

中期目標・中期計画（素案）



GIFU UNIVERSITY

国立大学法人 岐阜大学

平成21年6月25日

中期目標

中期計画

(前文) 大学の基本的な目標

【理念】

岐阜大学は、「学び、究め、貢献する」地域に根ざした国立大学として、東西文化が接触する地理的特性を背景としてこの地が培ってきた多様な文化と技術の創造と伝承を引き継ぎ、人と情報が集まり知を交流させる場、体系的な知と先進的な知を統合する場、学問的・人間的発展を可能とする場、その成果を社会に発信し、有為な人材を社会に送り出す場となることによって、学術・文化の向上と豊かで安全な社会の発展に貢献する。

【目標】

- 1) 岐阜大学は、人材養成を最優先事項として位置付け、質・量ともに充実した教育を行い、豊かな教養と確かな専門的知識・技能、広い視野と総合的な判断力、優れたコミュニケーション能力に加え、自立性と国際性を備えた高度な専門職業人を幅広い分野で養成し、社会に輩出する。
- 2) 岐阜大学は、優れた教育を実践するための研究基盤を維持するとともに、生命科学及び環境科学分野をはじめとする独創的、先進的研究の拠点形成を目指し、その成果を社会に還元する。
- 3) 岐阜大学は、多角的な教育力及び研究力により、地域の諸課題に取り組み、地域社会において存在感のある大学として、地域社

<p>会の活性化に貢献する。</p> <p>4) 岐阜大学は、教育と研究の特性を生かした大学の国際化を推進し、学生や教職員の国際的通用性を高め、地域社会の活性化に貢献する。</p>	
<p>◆ 中期目標の期間及び教育研究組織</p> <p>1 中期目標の期間 中期目標の期間は、平成22年4月1日から平成28年3月31日までの6年間とする。</p> <p>2 教育研究組織 この中期目標を達成するため、別表に記載する学部・研究科を置く。</p>	
<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標</p> <p>1 教育に関する目標</p> <p>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標</p> <p>①社会で生涯にわたって高度な専門職業人として活躍するために必要な、総合的な判断力や優れたコミュニケーション能力等の基盤的能力と専門的能力を自立的に学習する教育を実現する。</p>	<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 教育に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置</p> <p>①-1:学部・大学院で修得すべき基盤的能力、専門的能力の内容及び水準を明確にし、それを学生・教員が共有して教育を実施する。</p>

②大学の入学者受入れの方針に沿って、学部・大学院の教育方針を明確に提示する。

③教育方法や学習環境の改善につなげるため、学生と教員の双方が到達目標とその水準を明確にして学習成果を評価する。

④国際化に対応するために、教育課程の特性に応じた英語教育の導入と国際交流活動を推進する。

①-2: 学習に対する自立と責任を持つ態度を育成するため、学生主体の教育を実施する。

②-1: 学部・大学院の学位授与の基準、達成すべき学習成果を明確にした教育課程、入学者の受入れの方針を一貫性あるものとして具体的に明示する。

②-2: 入学者受入れの方針に応じて、入学者選抜方法及び入試実施体制を改善・整備する。

③-1: 基礎教育、共通教育、専門教育の体系的な教育課程において、学生自身が能力を自己点検して学習成果を確認できるシステムを構築する。

③-2: シラバスの内容を基盤的能力、専門的能力の学習成果の観点から充実させ、適切な成績評価の方法を開発し、実施する。

③-3: 学習に対して自立と責任を持つ態度を育成するための授業方法を開発し、実施する。

④-1: 学部教育や大学院教育の特性を生かした一貫性のある学生主体の英語教育プログラムを整備し、実施する。

④-2: 国際交流プログラムを整備し、国際的な教育・研究活動を展開する。

(2) 教育の実施体制等に関する目標

- ①組織及び教員個人の教育力向上のための適切な評価を行う体制を改善・強化する。
- ②教育の質の維持・向上の観点から、組織の見直しや他大学との連携を行う。
- ③教育効果を高める観点から教育環境について点検・改善・整備を行う。
- ④国際化に対応するための体制を整備し、充実させる。

(3) 学生への支援に関する目標

- ①入学から卒業・修了までの学生生活全般にわたる支援体制及び環境を整備し、充実させる。

(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

- ①-1：教育に関する基本方針と実施体制の検討組織を設置する。
- ①-2：ファカルティ・ディベロップメントを組織的・計画的に実施する。
- ①-3：教育効果を高めるため、多面的な教育評価方法を確立する。
- ②-1：学部・大学院教育の実施体制の見直しを行い、充実させる。
- ②-2：質の高い教育を行う観点から、必要に応じ、他大学との連携を行う。特に獣医学教育においては、鳥取大学との教育課程の共同実施を目指す。
- ③-1：図書館や教育メディアの整備及び活用支援を行う。
- ④-1：全学的な英語教育体制を整備し、充実させる。
- ④-2：留学生のための日本語教育体制を整備し、充実させる。

(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

- ①-1：就職支援、キャリア教育、インターンシップ事業を全学的に支援する組織体制を充実・強化する。

②学生の自立的学習，コミュニケーションを促進する環境整備及び学習支援体制を整備し，充実させる。

2 研究に関する目標

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

①優れた教育を実践する基盤となる研究活動を全国的・国際的水準で展開する。

②社会的要請や地域課題に応える研究，及び本学の地域性や人的資源を活かした特色ある研究を推進する。

③国際的研究拠点等を目指して，これまで培ってきた環境科学や生命科学系の独創的，先進的研究をさらに発展させる。

①-2：学生の諸課題に的確・迅速に対応できる体制を充実・強化する。

①-3：学生の課外活動を活性化するための支援体制を整備し，充実させる。

②-1：学生の自立的学習や学生相互がコミュニケーションできる環境を整備し，充実させる。

2 研究に関する目標を達成するための措置

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置

①-1：研究の成果を評価の高い専門誌等に発表するとともに，教育活動や人材育成に活かす。

①-2：研究力及び研究の質の向上につなげるため，将来性が見込める優れた研究の支援や各種公募事業への申請支援を行う。

②-1：社会の要請や地域課題に応える研究を学内公募や地域との連携により推進し，その成果を地域社会に積極的に公開・還元する。

②-2：専門分野や学部（研究施設）等の枠を越えた共同研究や連携研究を推進する。

③-1：環境科学や生命科学系をはじめとする研究の活動実績について点検・評価を行い，その結果を基に国際的拠点の形成を目指した高い評価が得られる研究を企画し，推進する。

(2) 研究実施体制等に関する目標

①教育の基盤である研究活動の促進と研究の質及び研究力の向上を図るため、研究環境を整備し、充実させる。

②地域貢献や本学の特色化に資する研究を実施するために、研究施設・大学院等の研究基盤を教職員の柔軟な配置等により戦略的に整備し、充実させる。

③環境科学や生命科学系の研究を柱とした独創的、先進的研究の拠点を形成する。

(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置

①-1: 資源配分や業務内容等について点検・評価を行い、研究環境を整備し、充実させる。

①-2: 学内の研究支援センター等の支援体制や支援状況を点検・評価し、支援機能を充実・強化する。

①-3: 若手研究者を育成するための大学院生に対する経済的支援制度や国内外の著名な研究者招聘を促進する制度等を整備し、充実させる。

①-4: 研究の評価を実質化するため、研究実績の評価法を確立し、インセンティブ制度を整備して、充実させる。

②-1: 特色ある研究センターや部局の研究組織等について点検・評価し、重点化や再編成等を行い、研究体制を整備して、充実させる。

②-2: 研究機関・他大学等との連携や、自治体・企業等からの寄附講座の設置等により研究組織を整備し、充実させる。

③-1: 環境科学や生命科学系をはじめとする特色ある研究拠点を設置する。

④国際的な研究活動を積極的に展開し、研究成果及び人材育成を通して国際貢献に寄与する。

3 その他の目標

(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

①地域に根ざした国立大学として、多角的な研究能力を活用して、自治体等との組織的な連携活動を推進し、その継続を通して地域の諸課題の解決や地域の再生・発展に貢献する。

②地域産業界及び自治体との連携・協力を推進し、学術資源の活用によって地域産業の振興に貢献する。

④-1:協定大学をはじめ世界の大学・研究機関との人的交流や共同研究等を推進する。

④-2:研究留学生の受け入れを厳格な評価・選抜の下で推進し、人材育成を通して国際貢献に寄与する。

3 その他の目標を達成するための措置

(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置

①-1:自治体との包括協定締結と協定自治体間の組織的連携を進め、当該自治体の地域振興計画等の実施に向けて大学として参加・貢献可能な分野・手法を協議し、実施計画に基づく活動の進捗状況等を検証して地域貢献を実質化させる。

①-2:地域の行政機関やNPO等からの相談窓口の整備と地域連携に協力可能な研究者とその研究分野・実績リストの作成・公表により、大学のシンクタンク機能を強化する。

②-1:自治体等との地域産業振興に向けた連携活動の強化と学術資源情報の活用者目線に立った整備を行い、共同研究や受託研究等を通じて技術的課題等を有する企業を支援する。

②-2:地域産業の振興を担う社会人の教育体制の構築と学生の地域産業への貢献意欲を醸成する。

③地域の教育機関等との連携と大学の教育機能の開放を強化し、地域の生涯学習の振興に貢献する。

③-1:教育委員会・教育機関等との連携・協働の体制づくりを進め、学校教育の改革・改善及び地域青少年教育の質向上を実現する。

③-2:自治体、産業界、NPO等との連携・協働を進め、多様な生涯学習機会の拡充と地域づくりをリードする人材を養成する。

④地域医療の確保や進行する高齢社会の諸問題の解決支援に貢献する。

④-1:自治体等と連携しながら地域医療を担う人材を養成する。

④-2:高齢社会が抱える諸問題を多面的に捉え、研究の推進と市民への啓発を進める。

(2) 国際化に関する目標

(2) 国際化に関する目標を達成するための措置

①大学の国際化を推進するための体制を整備し、充実させる。

①-1:大学の国際化を推進する拠点として、国際戦略本部を充実させる。

①-2:国際交流会館を拡充し、学生や研究者、地域コミュニティ等との交流を推進する。

①-3:学生、教職員の国際性を高めるための全学的な取り組みを推進する。

②大学の国際化への取組成果を活かし、社会に貢献する。

②-1:地域の住民や国際交流団体、企業等との定期的な国際交流及び留学生の社会活動を促進する。

②-2:協定大学との交流を推進し、開発途上国等への支援を充実させる。

(3) 附属病院に関する目標

- ①地域の中核となる医療人を育成する。
- ②地域連携の基盤に立ち、高質な医療を提供する。
- ③拠点病院の機能を活用し、EBM (evidence based medicine) を確立するための臨床研究の推進と新規医療技術開発を遂行する。
- ④迅速な経営判断に基づく経営基盤の強化と効率的な組織運営を行う。

(3) 附属病院に関する目標を達成するための措置

- ①-1: 学部の臨床実習カリキュラム改革を受けて、特に5, 6年生・研修1年生を一貫体制とする。これに対応するため、病院内各職種による横断的な研修医教育を行う。また、専門医の技術向上支援とコメディカルスタッフの研修支援、及び各種拠点病院事業の一環として地域医療人に開かれた研修を行う。
- ②-1 地域から期待されている先進・高度医療、難治性疾患等の拠点病院機能を整備する。また、高度な医療安全体制を維持・向上させ、4疾患に関する岐阜県の医療計画、5事業に関する国・地域からの要請に応じ、「安心・安全な医療」に積極的に参画するための機能整備を行う。
- ③-1: 膨大な患者医療情報を駆使した臨床研究、特にデータ固定が確実な質の高い研究を推進する。
- ③-2: 連合大学院を形成する岐阜薬科大学、連合創薬医療情報研究科と臨床研究における連携を強化する。
- ④-1: 病院機能の向上に必要な組織・手段・プロセスを継続的に点検・評価し、各種業務プロセスの有機的連携と業務改善を行う。
- ④-2: 職員の貢献度の適正評価と医療情報システムのデータを活用した迅速な経営状況の把握・分析を通じ、戦略的かつ効果的な改善を行う。

<p>(4) 附属学校に関する目標</p> <p>①実践的教育に基づく教員養成の推進に協力し、教育の質を向上させる。</p>	<p>(4) 附属学校に関する目標を達成するための措置</p> <p>①-1：附属小・中学校教員の連携を深め、教育学部教員と協同して義務教育9年間を見通したカリキュラム開発や教科教育を推進する。</p> <p>①-2：教育実習や大学院の実習について教育学部との連携を強化する。</p> <p>①-3：附属小・中学校と教育学部との研究面での連携を強化する。</p> <p>①-4：地域の教育力の向上のため、教育学部や教育委員会と連携した教員研修を推進する。</p>
<p>II 業務運営の改善及び効率化に関する目標</p> <p>1 組織運営の改善に関する目標</p> <p>①学長のリーダーシップに基づき、教育研究の向上に資する大学経営・組織運営を推進する。</p>	<p>II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置</p> <p>①-1：教育研究組織及び人事制度の在り方等を全学的観点から恒常的に検討を行う。</p> <p>①-2：大学全体の経営状況に関する情報等を収集・分析し、業務運営の改善を行う。</p> <p>①-3：全学的に男女共同参画を推進する。</p> <p>①-4：後援会、同窓会、地域住民等との関係性を強化する。</p>

<p>②学長を中心としたリスク・マネジメント体制を整備する。</p> <p>2 事務等の効率化・合理化に関する目標</p> <p>①恒常的に事務組織の見直し，事務の改善等を行うとともに，事務職員の資質を向上させる。</p>	<p>②-1:経営的な観点から幅広くリスクに対応することができる内部統制システムを整備する。</p> <p>②-2:リスク・マネジメントに対応した広報体制等を整備する。</p> <p>2 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置</p> <p>①-1:事務組織の見直し，事務の改善等を検討する恒常的な体制を整備する。</p> <p>①-2:事務職員の雇用形態の多様化，研修機会の充実，人事評価制度を確立する。</p>
<p>Ⅲ 財務内容の改善に関する目標</p> <p>1 外部研究資金，寄附金その他の自己収入の増加に関する目標</p> <p>①教育研究活動の活性化と水準を向上させるため，科学研究費をはじめとする外部資金を充実させる。</p> <p>②医学部附属病院と応用生物学部附属動物病院の一層の財務改善を進め，収入を増加させる。</p> <p>③「岐阜大学基金」事業を充実させる。</p>	<p>Ⅲ 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 外部研究資金，寄附金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置</p> <p>①-1:若手教員の科学研究費獲得率のさらなる向上，及び大型の競争的資金の獲得を支援するための体制を強化する。</p> <p>②-1:医学部附属病院の経営改善の推進と応用生物学部附属動物病院の経営的自立性を高める。</p> <p>③-1:「岐阜大学基金」事業を岐阜大学独自の特徴ある恒常的事業として充実させる。</p>

2 経費の抑制に関する目標

(1) 人件費の削減

- ①「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」(平成18年法律第47号)に基づき、平成18年度以降の5年間において国家公務員に準じた人件費削減を行う。更に、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006」(平成18年7月7日閣議決定)に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成23年度まで継続する。

(2) 人件費以外の経費の削減

- ①財政面から教育・研究の水準を維持・向上させるために、固定的経費の定期的な見直しを行い、管理的経費等を抑制する。

3 資産の運用管理の改善に関する目標

- ①土地、建物、大型研究施設設備等の現有資産の効果的、効率的な運用を積極的に行う。

2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置

(1) 人件費の削減

- ①-1「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」(平成18年法律第47号)に基づき、国家公務員に準じた人件費改革に取り組み、平成18年度からの5年間において、△5%以上の人件費削減を行う。更に、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006」(平成18年7月7日閣議決定)に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成23年度まで継続する。

- ①-2: 事務・管理業務の合理化、効率化と事務組織の見直しを行い、人件費を抑制する。

- ①-3: 教員、技術職員及び非常勤講師の適正な配置を行うなどの人員配置の効率的運用を推進する。

(2) 人件費以外の経費の削減

- ①-1: 定期的に経費や契約の見直しを行い、管理的経費を抑制する。

3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置

- ①-1: 土地、建物の利用状況の点検・評価に基づく有効かつ堅実な活用と学内大型研究設備等の共同利用を推進する。

	<p>①-2：有価証券・預貯金などの堅実な運用により、収益を政策経費化の財源として充てる。</p>
<p>IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標</p> <p>1 評価の充実に関する目標</p> <p>①岐阜大学への各部局と教員の貢献度を評価するための岐阜大学評価システムをより信頼と実効あるものにし、岐阜大学の活力とブランド力を高める。</p> <p>2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標</p> <p>①適時適切な情報公開や情報発信等を国内外に積極的に行う。</p>	<p>IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 評価の充実に関する目標を達成するための措置</p> <p>①-1：岐阜大学評価システムの信頼性をより一層高めるための検討と改善を行い、その実効性を高め、評価を教育研究の質向上につなげる。</p> <p>①-2：自己点検・評価のなかに、関係者の意見のみならず、広く社会の視点を取り入れ、ブランド力向上につながる評価を行う。</p> <p>①-3：総合評価と組織評価の一体的運用によって教育・研究等の改善・充実につながる仕組みを構築し、総体としての岐阜大学の活力を高める。</p> <p>2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標を達成するための措置</p> <p>①-1：自己点検・評価及び外部評価の結果を、ホームページ等を通じて適時適切に公表する。</p> <p>①-2：評価を通じて明らかになった岐阜大学の特色やブランドイメージを広く社会に発信する。</p>

V その他業務運営に関する重要目標

1 施設設備の整備・活用等に関する目標

①大学の教育研究等の目標の実現や経営的観点を踏まえたキャンパス全体の整備構想に基づき、良好なキャンパス環境を形成する。

2 安全管理に関する目標

①安全教育等予防的措置も含めた安全衛生管理体制を整備する。

3 法令遵守に関する目標

①経理の適正化等、法令に基づく適正な法人運営を行う。

V その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置

1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置

①-1：キャンパス全体の整備構想を策定し、教育研究施設・設備の安全性の確保と計画的な整備、活用を行う。

①-2：環境マネジメント計画を着実に推進する。

①-3：PFI事業（岐阜大学総合研究棟施設整備事業）を引き続き推進する。

2 安全管理に関する目標を達成するための措置

①-1：災害、事件・事故等や日常業務に関する安全衛生教育等を推進する。

①-2：危機管理体制の見直しを常に行う。

3 法令遵守に関する目標を達成するための措置

①-1：法令違反を未然に防止するための体制整備、ルールの方策・見直し、研修等を一層強化する。

①-2：内部監査体制を強化する。

中期目標		中期計画		年度計画			
別表1(学部、研究科等)		別表(収容定員)		別表(学部の学科、研究科の専攻等)			
学部	教育学部	平成22年度	教育学部	1,000人	教育学部	学校教育教員養成課程	800人
	地域科学部		(うち教員養成に係る分野)	860人		特別支援学校教員養成課程	60人
研究科	医学部	年度	地域科学部	420人	地域科学部	生涯教育課程	140人
	工学部		医学部	870人		(うち教員養成に係る分野)	860人
	応用生物科学部		(うち医師養成に係る分野)	530人			
	教育学研究科		工学部	2,100人		地域政策学科	210人
	地域科学研究科		応用生物科学部	830人		地域文化学科	210人
	医学系研究科		(うち獣医師養成に係る分野)	170人			
	工学研究科		教育学研究科	138人	医学部	医学科	530人
	応用生物科学研究科		(うち修士課程)	98人		看護学科	340人
	連合農学研究科		(うち専門職学位課程)	40人		(うち医師養成に係る分野)	530人
	(岐阜大学)		地域科学研究科	40人	工学部	社会基盤工学科	240人
	(静岡大学)		(うち修士課程)	40人		機械システム工学科	250人
	※連合大学院である		医学系研究科	244人		応用化学科	220人
	連合獣医学研究科		(うち修士課程)	16人		電気電子工学科	240人
	(岐阜大学)		博士課程	188人		生命工学科	240人
	帯広畜産大学		博士前期課程	22人		応用情報学科	280人
	岩手大学		博士後期課程	18人		機能材料工学科	220人
	(東京農工大学)		工学研究科	631人		人間情報システム工学科	200人
	※連合大学院である		(うち博士前期課程)	550人		数理デザイン工学科	150人
	連合創薬医療情報研究科		博士後期課程	81人		(各学科共通)	60人
	(岐阜大学)		応用生物科学研究科	178人			
	(岐阜薬科大学)		(うち修士課程)	178人			

※連合大学院である	連合農学研究科 52人 (うち博士課程 52人) 連合獣医学研究科 70人 (うち博士課程 70人) 連合創薬医療情報研究科 18人 (うち博士課程 18人)	応用生物科学部 食品生命科学課程 330人 生産環境科学課程 330人 獣医学課程 170人 (うち獣医師養成に係る分野 170人)
	平成23年度 教育学部 1,000人 (うち教員養成に係る分野 860人) 地域科学部 420人 医学部 890人 (うち医師養成に係る分野 550人) 工学部 2,100人 応用生物科学部 830人 (うち獣医師養成に係る分野 170人)	教育学研究科 カリキュラム開発専攻 20人 (うち修士課程 20人) 心理発達支援専攻 18人 (うち修士課程 18人) 教科教育専攻 60人 (うち修士課程 60人) 教職実践開発専攻 40人 (うち専門職学位課程 40人)
	教育学研究科 138人 (うち修士課程 98人) (うち専門職学位課程 40人) 地域科学研究科 40人 (うち修士課程 40人) 医学系研究科 244人 (うち修士課程 16人) 博士課程 188人 博士前期課程 22人 博士後期課程 18人 工学研究科 631人	地域科学研究科 地域政策専攻 24人 (うち修士課程 24人) 地域文化専攻 16人 (うち修士課程 16人) 医学系研究科 医科学専攻 188人 (うち博士課程 188人) 再生医科学専攻 40人 (うち博士前期課程 22人) (うち博士後期課程 18人) 看護学専攻 16人 (うち修士課程 16人)

		うち博士前期課程 550人					
		博士後期課程 81人					
		応用生物科学研究科 178人					
		(うち修士課程 178人)					
		連合農学研究科 56人					
		(うち博士課程 56人)					
		連合獣医学研究科 75人					
		(うち博士課程 75人)					
		連合創薬医療情報研究科 18人					
		(うち博士課程 18人)					
平成 24 年 度	教育学部	1,000人					
	(うち教員養成に係る分野 860人)						
	地域科学部	420人					
	医学部	910人					
	(うち医師養成に係る分野 570人)						
	工学部	2,100人					
	応用生物科学部	830人					
	(うち獣医師養成に係る分野 170人)						
	教育学研究科	138人					
	(うち修士課程 98人)						
(うち専門職学位課程 40人)							
地域科学研究科	40人						
(うち修士課程 40人)							
医学系研究科	244人						
(うち修士課程 16人)							
				工学研究科	社会基盤工学専攻 58人		
					(うち博士前期課程 58人)		
					機械システム工学専攻 68人		
					(うち博士前期課程 68人)		
					応用化学専攻 52人		
					(うち博士前期課程 52人)		
					電気電子工学専攻 58人		
					(うち博士前期課程 58人)		
					生命工学専攻 58人		
					(うち博士前期課程 58人)		
					応用情報学専攻 66人		
					(うち博士前期課程 66人)		
					機能材料工学専攻 52人		
					(うち博士前期課程 52人)		
					人間情報システム工学専攻 48人		
					(うち博士前期課程 48人)		
					数理デザイン工学専攻 26人		
					(うち博士前期課程 26人)		
					生産開発システム工学専攻 21人		
					(うち博士後期課程 21人)		
					物質工学専攻 9人		
					(うち博士後期課程 9人)		
					電子情報システム工学専攻 12人		
					(うち博士後期課程 12人)		
					環境エネルギーシステム専攻 103人		

		博士課程 188 人 博士前期課程 22 人 博士後期課程 18 人		うち博士前期課程 64 人 博士後期課程 39 人
		工学研究科 631 人 (うち博士前期課程 550 人) 博士後期課程 81 人		
		応用生物科学研究科 178 人 (うち修士課程 178 人)		資源生命科学専攻 90 人 (うち修士課程 90 人) 生物環境科学専攻 88 人 (うち修士課程 88 人)
		連合農学研究科 60 人 (うち博士課程 60 人)		生物生産科学専攻 19 人 (うち博士課程 19 人)
		連合獣医学研究科 80 人 (うち博士課程 80 人)		生物環境科学専攻 13 人 (うち博士課程 13 人)
		連合創薬医療情報研究科 18 人 (うち博士課程 18 人)		生物資源科学専攻 20 人 (うち博士課程 20 人)
平成25年度		教育学部 1,000 人 (うち教員養成に係る分野 860 人)		
		地域科学部 420 人		
		医学部 930 人 (うち医師養成に係る分野 590 人)		
		工学部 2,100 人		
		応用生物科学部 830 人 (うち獣医師養成に係る分野 170 人)		
		教育学研究科 138 人 (うち修士課程 98 人) (うち専門職学位課程 40 人)		
			連合獣医学研究科 獣医学専攻 70 人 (うち博士課程 70 人)	
			連合創薬 創薬科学専攻 9 人 医療情報研究科 (うち博士課程 9 人) 医療情報学専攻 9 人 (うち博士課程 9 人)	
		附属小学校 普通学級 720 人 学級数 18 養護学級 24 人		

		地域科学研究科 40 人 (うち修士課程 40 人) 医学系研究科 244 人 (うち修士課程 16 人) 博士課程 188 人 博士前期課程 22 人 博士後期課程 18 人) 工学研究科 631 人 (うち博士前期課程 550 人) 博士後期課程 81 人) 応用生物科学研究科 178 人 (うち修士課程 178 人) 連合農学研究科 60 人 (うち博士課程 60 人) 連合獣医学研究科 80 人 (うち博士課程 80 人) 連合創薬医療情報研究科 18 人 (うち博士課程 18 人)			
	平成26年度	教育学部 1,000 人 (うち教員養成に係る分野 860 人) 地域科学部 420 人 医学部 940 人 (うち医師養成に係る分野 600 人) 工学部 2,100 人 応用生物科学部 830 人	学級数 3 普通学級 480 人 学級数 12 養護学級 24 人 学級数 3		

		(うち獣医師養成に係る分野	170 人)	
		教育学研究科	138 人	
		(うち修士課程	98 人)	
		(うち専門職学位課程	40 人)	
		地域科学研究科	40 人	
		(うち修士課程	40 人)	
		医学系研究科	244 人	
		(うち修士課程	16 人)	
		博士課程	188 人	
		博士前期課程	22 人	
		博士後期課程	18 人)	
		工学研究科	631 人	
		うち博士前期課程	550 人	
		博士後期課程	81 人	
		応用生物科学研究科	178 人	
		うち修士課程	178 人	
		連合農学研究科	60 人	
		(うち博士課程	60 人)	
		連合獣医学研究科	80 人	
		(うち博士課程	80 人)	
		連合創薬医療情報研究科	18 人	
		(うち博士課程	18 人)	
		教育学部	1,000 人	
平		(うち教員養成に係る分野	860 人)	
成		地域科学部	420 人	

27 年 度	医学部	940 人
	（うち医師養成に係る分野	600 人）
	工学部	2,100 人
	応用生物科学部	830 人
	（うち獣医師養成に係る分野	170 人）
	教育学研究科	138 人
	（うち修士課程	98 人）
	（うち専門職学位課程	40 人）
	地域科学研究科	40 人
	（うち修士課程	40 人）
	医学系研究科	244 人
	（うち修士課程	16 人）
	博士課程	188 人
	博士前期課程	22 人
	博士後期課程	18 人
	工学研究科	631 人
	（うち博士前期課程	550 人）
博士後期課程	81 人）	
応用生物科学研究科	178 人	
（うち修士課程	178 人）	
連合農学研究科	60 人	
（うち博士課程	60 人）	
連合獣医学研究科	80 人	
（うち博士課程	80 人）	
連合創薬医療情報研究科	18 人	
（うち博士課程	18 人）	